

ながいもの青かび病（病原菌の同定、病原の追加）

青かび病はいもが暗褐色に腐敗する病害で、種いもの催芽過程における腐敗の原因として問題になっている。病原菌は *Penicillium* 属であり、これまで種名は未同定であった。令和3年に十勝農試場内および池田町で発生したながいもの腐敗種いもから病原菌を分離したところ、3種の *Penicillium* 属菌が分離された。分離菌をながいものに接種したところ原病徴が再現され、接種菌が再分離された。形態的特徴および ITS、 β -tubulin、calmodulin 領域の分子系統解析の結果から、分離菌は、*P. albocoremium* (Frisvad) Frisvad、*P. polonicum* K. M. Zalesky、*P. sclerotigenum* T. Yamamoto と同定された。*P. sclerotigenum* は道外で報告があるが、*P. albocoremium* および *P. polonicum* はこれまで報告がなく青かび病の病原として追加することを提案した。

なお、これら3種の病原菌で病原性の強さに差が認められ、*P. sclerotigenum* は病原性が強く内部まで深く腐敗が進行するのに対し、*P. albocoremium* および *P. polonicum* は腐敗の程度が軽かった。

（十勝農試・三重大）